

画家 岸田劉生の軌跡 岸田劉生再発見

——— 油彩画と日本画・版画・装幀デザイン ———

平成27年 5月15日(金)～7月11日(土) ※会期中無休



■会場

パラミタミュージアム 2階展示室

■開館時間

午前9時30分～午後5時30分
(最終入館は午後5時まで)

■入館料

- ・一般 1,000円(4枚セット券3,000円)
- ・大学生 800円
- ・高校生 500円
- ・中学生以下無料

■主催

公益財団法人岡田文化財団パラミタミュージアム

■後援

中日新聞社、伊勢新聞社、読売新聞社、
朝日新聞社、NHK津放送局、三重テレビ放送、
三重エフエム放送

■協力

公益財団法人日動美術財団

関連イベント

当館学芸員による列品解説

日時:5月31日(日) 午後2時～

メゾソプラノとピアノによるコンサート

日時:6月7日(日) 午後2時～

メゾソプラノ:相可佐代子/ピアノ:姫野真紀

「菊慈童」

(大正15年)

絹本彩色

笠間日動美術館蔵

画家 岸田劉生の軌跡

岸田劉生再発見

1891(明治24)年、東京に生まれた岸田劉生は、黒田清輝が主宰する白馬会洋画研究所で油彩画を学びました。やがて文芸同人雑誌『白樺』との出会いをきっかけに、ゴッホやセザンヌなど後期印象派から影響を受けた作品を制作したのち、北方ルネサンスの様式を手がかりとした精緻な写実表現へと転じ、深い静謐さにみちた静物画や肖像画を描くようになります。その後、宋元画や初期肉筆浮世絵、南画などの東洋的な美に関心を寄せ、それを自らの作品に反映させますが、1929(昭和4)年、病のため38歳の若さでこの世を去りました。

こうした画風の変遷とともに、劉生の手がけたジャンルの多様性が、いま注目を集めています。よく知られた油彩画ばかりではなく、水彩素描、日本画、版画にも数多くの優れた作品を残しているのです。また日本の伝統に西洋のグラフィックをとり入れた、大正ロマンの香り漂う装幀画にも非凡な才能を開花させ、武者小路実篤の著書をはじめ、『白樺』の表紙などに多くの作品を残しています。

本展では、こうした多岐にわたる劉生の130点を超える作品を一堂にご紹介します。大正から昭和初期の洋画壇で特異な輝きを放った画家岸田劉生の、これまではあまり知られてこなかった多面的な魅力にふれていただく機会となれば幸いです。



「菊慈童麗子」(大正9年)木版



「自画像」(大正2年)油彩



「かちかち山」(大正6年)水彩



「村娘之図」(大正8年)木炭、パステル、水彩



「寒山風麗子像」(大正11~12年)
紙本墨画淡彩



「静物(林檎と葡萄)」(大正8年)油彩

※作品は笠間日動美術館蔵

次回展示のお知らせ

会期 平成27年 7月15日(水) ~ 8月31日(月) 第10回パラミタ陶芸大賞展

同時開催：パラミタ陶芸大賞展10年のあゆみ 投票期間：7/15(水)~8/16(日) 大賞発表式：8/23(日)
全国の美術館・画廊・評論家などの推薦により上位6名をノミネートし、展示期間中、美術館に来館して頂いた方の投票により大賞を選びます。最多得票数獲得者一名に、第10回パラミタ陶芸大賞を授与します。

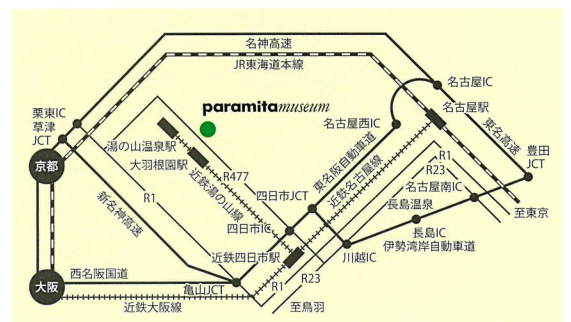
出品作家(五十音順) 伊藤慶二(岐阜県土岐市) / 植松永次(三重県伊賀市) / 齋藤まゆ(石川県金沢市) / 服部真紀子(愛知県大府市) / 増田敏也(大阪府大阪市) / 山岸大祐(愛知県豊田市)

■お車をご利用の場合 / 東名阪「四日市IC」より国道477号線(湯の山街道)を湯の山方面へ約6.5km。 ■無料駐車場有り(普通車100台、大型バス駐車可)
■電車をご利用の場合 / 近鉄「四日市駅」下車、近鉄湯の山線に乗り換え約25分、「大羽根園駅」下車、西へ300m。 ■全館バリアフリー、車椅子常備

paramitamuseum
公益財団法人 岡田文化財団

〒510-1245 三重県三重郡菟野町大羽根園松ヶ枝町21-6

Tel.059-391-1088 Fax.059-391-1077 E-mail office@paramitamuseum.com http://www.paramitamuseum.com



パラミタミュージアム 検索